

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700550		
法人名	社会福祉法人報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 高崎	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市高崎町大牟田1260番地2		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/45//index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihomtrue&amp;ajiyosyoCd=4571700550-00&amp;PrefCd=45&amp;Versi0nCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/45//index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihomtrue&amp;ajiyosyoCd=4571700550-00&amp;PrefCd=45&amp;Versi0nCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の外周に桜並木がありシーズンには花見も楽しめる自然に囲まれた施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員体制が見直されない状況が続いている中で、職員一人ひとりの仕事量が多いが、連携や協力をしながら笑顔を保ち、介護をしている。利用者一人ひとりの目覚める時間を把握し、最初にリビングに来る人に備えて暖房を入れ、その後、一人ずつの目覚めに対応する利用者重視の介護がなされている。地域密着型サービスの意義を職員が理解し、適用することや支援経過の中で「問題点と改善」を書く項目があり、それを生かすことにより、更に他の分野に良い連鎖が生まれる状況が整いつつある。3つのユニットがつながっている利点が生かされ、職員の連携や利用者が他のユニットへ行くことが可能となっている。ふれあいセンターがあり有効利用ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念を朝の朝礼時に復唱し、共有して実践につなげている。	地域とのかかわりを大切にという理念を掲げている。施設長や管理者は、地域密着型サービスの意義を理解しているが、職員の入れ替わりも多いため、職員の大半は意義を理解していない状態である。	グループホームと地域密着型サービスの意義とかかわりを職員が理解できるように指導し、具体的に何をすることなのか、話し合いをすることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、夏祭りなどを行う時は、近隣の方を招待している。交流は日常的ではない。	ボランティアでアロマセラピーが来たり、地域の衣料品店やスーパーマーケットで買い物をしている。夏祭りも案内のパンフレットを地域に配っている。職員は、地域の清掃活動に地域貢献として年4回参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告などに対し評価、助言、アドバイス等を頂いている。職員会議等で職員に周知し、サービスの向上に活かしている。	質問や提案が出されている内容となっている。徘徊への提案である服装などの特徴を日々チェックしておくということは、徘徊が生じた際にそれを記録する欄がある配布用の用紙に生かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市職員も来られサービス内容についての助言や各種情報を得ている。	利用者の空き状況や事故報告などで市の担当課に出かけたり、百歳の誕生日には支所の担当者が参加するなど、連携がなされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理解している。やむをえず施錠を行っているが、できる限り、施錠を行わない様にしている。	管理者、職員は、身体拘束に何が該当するのかを理解している。利用者に拘束をしている例はないが、門扉および玄関の施錠は課題となっている。利用者の状態や職員体制に余裕のあるときは、開錠するようにしている。	施錠が拘束に当たり、それが及ぼす危険性等も考慮しながら、開錠に向けた取組に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに注意し合い虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会がない為、活用できていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	人居時に契約書、重要事項説明書にて、説明を行い、十分理解と納得をして頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を相談して頂ける様、玄関先に要望箱を設置している。運営推進会議に出席下さるご家族からも直接、意見・要望を頂いており、反映させている。	利用者の要望には応えるようにしている。訪問した家族には、職員が要望を聞き、対応するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて、意見・提案を聞く機会を設けている。	朝礼や個人的に業務に関する意見を聞く機会が設けられている。職員不足による意見が出るが、応じられない状況の中で業務連携を取って対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の評価はされているが、向上心を持って働ける程の配慮はされていない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(法人内・外)を受ける機会の確保を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会による研修等が計画されているが、勤務状況により参加できる機会が少なく同業者と交流する機会がない。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階から、本人が困っていることなどを聞き、困難な方にはサマリーなどからくみ取っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階から家族の要望を聞き、不安の軽減に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用できる様、柔軟に対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のADLに応じて、清掃や洗濯物のたたみ等、手伝って頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不定期ではあるが、家族参加の行事などを施設から発信している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解のもと、地域の方や親しい友人などの面会がある時は、場所の提供などを行っている。	会いたい人がいるという利用者の要望は、家族にも知らせて協力を願ったり、その人に電話できるよう支援している。住んでいた所、墓参りに職員が同行することもある。利用者が行っていた公共の場所へドライブの支援もなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士を同じテーブルに配置している。他の棟にいる知人との交流もしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の要望があれば、何時でも相談、支援に応じるようにしている。今のところ契約終了後の相談はない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人から把握して出来るように努めている。困難な場合はモニタリングを行っている。		自分の願いを述べる利用者には、それをかなえるよう支援している。それができない利用者には選択肢を与えたり、モニタリングを活用して提案をし、聞き出して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活経緯を聞き、これからどの様に暮らして行きたいかの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼時や個人記録、健康管理表をもとに、一人ひとりの現状を把握する様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通して見直しが必要な場合は、ケアマネ、看護師、職員間で意見交換を行っている。		状態に変化がある場合は随時、み直しを行っているが、3か月又は6か月でみ直しと計画書の作成を行い、関係者の意見を出し合い反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、及び連絡ノートを作成、情報を共有しながら、実践・介護計画の見直しなどに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に取り組んでいる訳ではないが、ご家族の宿泊などに対応している。			

宮崎県都城市高崎町 グループホームミュージズの空高崎(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアを通して一緒に踊りを踊ったり、歌を唄ったりして楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の下、病状に応じては、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科等専門機関との連携を持ち支援している	皆が掛かりつけ医で、看護師か職員が付き添い、口頭で利用者の状態を伝えている。家族付き添いの場合は、状況を口頭で伝え、受診の結果を家族から聞いている。協力医は2週間ごとに往診し、必要な情報を事前に医師に伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が気付いた点は、緊急の場合は即看護師に連絡。また、医療申し送りノートにより、情報を共有し看護師よりかかりつけ医に上申して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、随時病院へ状況確認を行い、病院側と情報交換を行う様にしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、及び看取りに関する指針を説明して同意を頂いている。	重度化に関する指針という文書があり、入居時に説明している。利用者の状態の変化に応じて、家族、掛かりつけ医等との話し合いを設け、確認の上、同意書作成がなされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、緊急蘇生法の実技講習に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、地域への協力は運営推進会議時においてお願いしている。	消防署指導の下で、火災時の訓練を行うこともある。夜間を想定しての訓練はなされておらず、近隣の参加も行われていない状況である。	夜間想定訓練や近隣の人々への防災訓練の周知、および見学、訓練参加が出来るように行っていくことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく、丁寧な声掛けを心掛けて行っている。		利用者の様子を見ながら、選択肢を与えて反応を確かめつつ対応している。若い新人職員は、忙しさの中で不適当な言葉を用いることがあるので、管理者や先輩職員が提案を与えて育てているところである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行状態により、思いを伝える事が困難な方には、その人の行動や様子、表情から思いをくみ取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で行っている部分もあるが、出来る限り希望に沿える様努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、身だしなみなど、出来る範囲で支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は職員が行っているが、片付け等は自ら行って下さる方もいる。また、テーブル拭き等も一緒にして下さっている。		食事は法人の厨房から届けられている。利用者の好みや状態は事前に伝えてあるので、それに応じた調理がなされている。職員も同じメニューを食べながら利用者に話しかけ、楽しい雰囲気づくりを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録してその人に合った食事形態が摂れる様に支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力、状態に応じた声掛けをし、口腔ケアの支援をしている。清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の無い方は、定期的にトイレ誘導を行っている。自立で行かれる方には、声掛けや見守りを行っている。		利用者の状態を把握し支援を行っている。車いす利用者がトイレに行きたいと言う時は、車いすを押すのではなく、自分で操作する方法を示して見守り、自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表に排泄の回数を記録し、便秘の方には乳製品やオリゴ糖など摂って頂き、便秘の無い様心掛けている。処方された下剤を服用される方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせての入浴は、ほとんど行えていない。その日の体調に応じて無理強いはいしない様になっている。		暗くなってから入浴をしたいという利用者の希望もあったが、職員体制上、できない状況である。だからといって入浴を拒否されるわけではないので、ホームの決めた時間帯に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、それぞれの就寝時間やその日の体調に合わせて休んで頂くようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が、定期処方薬に配布されているので、毎回確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩の好きな方は、職員と一緒に園庭や園外に散歩に行ったり、草取りの好きな方は、庭の草取り、またラジオやCDなどもかけて、常に楽しく過ごして頂く様支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ないが、家族の協力を得て外出、外泊が出来る様支援している。		天気の良い日は広い庭を散歩したり、お茶会を行っている。買い物の希望のある利用者には、職員が伴って出かけている。家族同伴の墓参りや美容院を望む時には、職員が付き添って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおられる。希望があれば、職員・家族が付き添いの下、買い物へ行く支援も行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度連絡している。ご家族、知人などからかかってきた時は、すぐに取り次ぐようにしている。ご家族に手紙を書き、出される方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓は常に心掛けており、生活や季節感も分かる様に掲示している。		各ユニットのリビングには高床の畳の間がある。テーブルがあり、そこで食事をする利用者もいる。畳の間に上がるための補助具が備え付けてある。華美な飾り付けもなく、清掃も行き届いており異臭もない。廊下などの各ソファの位置は、間隔を開けて利用者が座りたいように配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、いつでも座れる様にしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やカレンダー、観葉植物、花等本人の好きな物を飾って頂いている。また、全室掲示板を設け色々な物を掲示したり自由に使用して頂いている。		使い慣れたベッドやタンス、仏壇などのある居室や家族との話し合いでシンプルな居室もある。全室畳敷きであるが、車いすを入れる部屋は職員と家族で、一部フローリングにしている。利用者好みの居室になるよう職員も協力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーであり、各場所も明確ではあるが安全面においては工夫されていない。			